

令和5年度

試験名： 推薦入試

【 人間学群 教育学類 】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文	<p>I 出題意図</p> <p>本問題は、Biesta, Gert J. J. (2016) <i>Good Education in an Age of Measurement: Ethics, Politics, Democracy</i>, Routledge (First published 2010 by Paradigm Publishers)の一部を抜粋したものである。日本語訳として、藤井啓之、玉木博章 訳『よい教育とはなにか: 倫理・政治・民主主義』が2016年に白澤社から出版されている。</p> <p>エビデンスに基づく教育論は昨今、日本の教育界でも重視されるようになってきている。問題文においては、エビデンスに基づく教育研究の有用性が認められつつも、教育実践への貢献が測定可能で予測可能なものとして教育をとらえる研究のみに限定されてしまいかねない傾向性とその危うさについて問題提起されている。そこでは、エビデンスに基づく教育研究における「技術的役割」と「文化的役割」の区別やその重要性、民主主義との関係などについて明快に整理されている。</p> <p>問題文は比較的平易な英文であり、本学類生に求められる英文読解力を受験生が有しているかどうかを判断するためにも適切なテキストである。その内容を正確に読み取ると同時に、自らの受けた教育の内実やその成果などを振り返りつつ、教育のとらえ方や論じ方、また教育の可能性や限界などについて考えることができるかを問い、受験生の学力の程度を確認することが出題の意図である。問4は、問題文における筆者の見解に対して、理由とともに自説を言語化することを求めるものであり、それを通して、受験生の論理展開力と文章表現力をみるものである。</p> <p>II 配点・解答例</p> <p>問1 [解答例]</p> <div data-bbox="438 1361 1433 1601" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>研究は教育的手段の有効性を調べるだけでなく、同時に教育目的の望ましさを探求すべきでもある、ということを私は主張してきたが、エビデンスに基づく実践は、前者の仕事にのみ焦点をあて、そうすることで研究が教育実践に関連しうる唯一の方法は道具的もしくは技術的知識の提供を通してである、と決めてかかるのである。</p></div> <p>問2 [解答例]</p>

異なった解釈を提供することによって、社会的現実の異なった理解の仕方や異なった想像の仕方を想起させるというかたちで教育実践に寄与し得る。文化的役割を有した研究は、教育実践者に彼らの実践をそれまでとは違った形で理解することができるよう手助けをしたり、実践者に自らの実践を違うように見せたり、想像させたりするのに役立つ可能性がある。また、そうした異なった理論的レンズを通して見ることによって、これまでわれわれが理解しなかった問題を理解することができるようになるかもしれないし、見なかったところに問題を見ることができるようになるかもしれない。そして、結果として、われわれは今まで想定していなかったような行動の機会を想定することができるようになるかもしれない。教育研究の文化的役割はそのような形で技術的役割に劣らず教育実践に寄与し得る。

問 3

〔解答例〕

文化的な選択肢を見落とすということである。それは所与の目的のために手段を作り出すことに焦点をあて、研究上の問いを「技術的な効率性や効果性の語用論」へと矮小化してしまう。研究に関して技術的な期待を抱いているだけなのである。

問 4

〔採点のための観点〕

・当該箇所と段落の本文の記述は以下の通りである。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

まず、下線部(エ)は、本文の主旨である、次のようなとらえ方を前提として導きだされた論であることをふまえて理解される必要がある。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません)

○賛成の立場としては、筆者の説く上記のような前提に対し、それを肯定的にとらえ、そのような見解を裏付けるような事例やさらに補強するような論、具体例なエピソードなどを通じた考察が考えられる。

○反対の立場としては、筆者の説く上記のような前提に対し、それを否定的にとらえ、そのような前提が疑われるような事例や論、または当てはまらない例外的なエピソードなどを通じた考察が考えられる。あるいは、前提までは同意するとしても、研究はあくまで科学的、中立的立場から説かれるものであり、安易に「民主主義」や政治形態などの見地とからめて断じられるべきではない、といった展開なども考えられる。

いずれの立場をとるにせよ、筆者の主張をきちんと理解した上で自分の立場が明らかにされているか、また、そのような立場をとる理由まで詳しく論述されているかが問われる。さらに、全体がどのくらい論理的かつ説得的に言語化されているのかもポイントとなる。